

# 『分類語彙表』の多義語の意味増補のための 『IPAL』用言例文への番号付与

柏野 和佳子      大阿久 志緒理



# 背景

◆ 『分類語彙表 増補改訂版』（国立国語研究所，2004年）では、初版（約3万7千語）から増補版（約9万6千語）を作成する際に、基本的な多義語は多重分類された。しかしながら、基本的な多義語の意味がどこまでカバーされているかの検証は行われていない。

※分類番号は「1.3131」のような5桁の数字として表記され、各数字あるいはその組み合わせが「類」「部門」「中項目」「分類項目」という4階層の意味的範疇を示す構造となっている。

◆ そこで、『分類語彙表』での分類と、情報処理振興事業協会（IPA）GSK配布版『計算機用日本語基本辞書IPAL—動詞・形容詞・名詞—』（2007年）に収録されている多義語の意味との対照調査を行った。『計算機用日本語基本辞書IPAL』で扱われている基本的な意味のうち、『分類語彙表』に未分類であるものがどれくらいあるかを調査した。

※『IPAL』は、1980年代後半より、情報処理振興事業協会（IPA）技術センターにて、言語学者、国語学者を中心とする研究グループが結成されて構築された。

<類>	<部門>	<中項目>	<分類項目>	
体	人間活動 —精神・行為	言語	話・談話	
1	3	1	3	1

<1.3131 話・談話>の語例

01 話（はなし） 話（わ） トーク  
 談話 談 会話 対話 対語（たいご）  
 やり取り ダイアログ 面談 三者面談  
 話し掛け 語り掛け  
 02 語らい 談論  
 歓談 懇談 懇話  
 笑談 談笑  
 閑語 閑話 閑談  
 高談 高話 謹話  
 （以下、略）

- 『計算機用日本語基本動詞辞書IPAL(Basic Verbs)』（1987年）：和語動詞861語
- 『計算機用日本語基本形容詞辞書IPAL(Basic Adjectives)』（1990年）：基本形容詞136語
- 『計算機用日本語基本名詞辞書IPAL(Basic Nouns)』（1996年）：文法的に特徴あるものを優先した基本名詞1,081語

# 『IPAL動詞辞書』と『分類語彙表』との比較

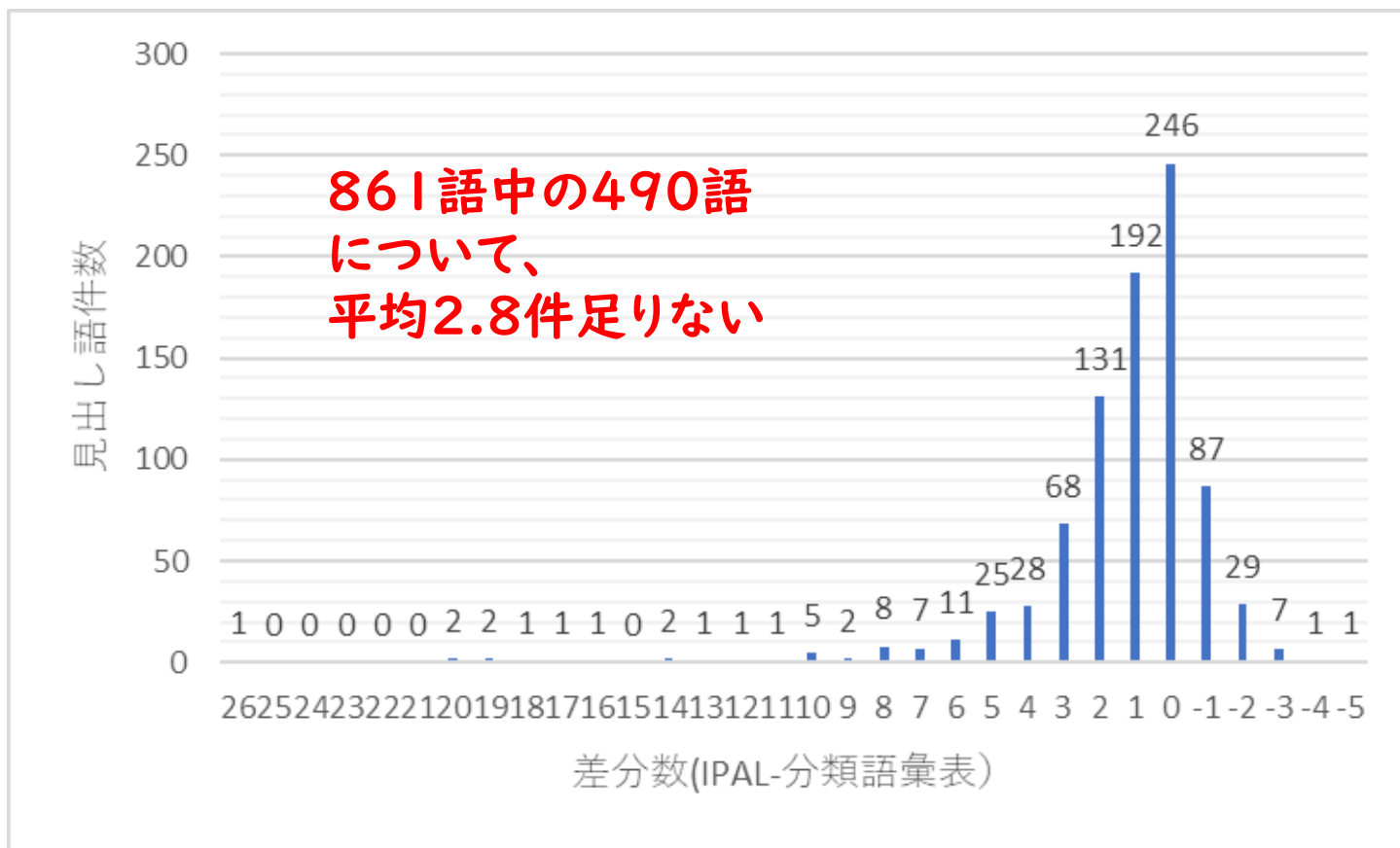


図1 差分数別の見出し語件数

見出し	IPAL	分類語彙表	差分
出る, でる	31	5	26
掛ける, 懸ける, 架ける, かける	28	8	20
出す, だす	26	6	20
架かる, 掛る, 掛かる, 懸る, 懸かる, 罹る, 罹かる, 係る, 繋る, 係かる, かかる	29	10	19
取る, 捕る, 獲る, 採る, 撮る, とる	28	9	19
入る, はいる	20	2	18
打つ, 撃つ, 討つ, うつ	23	6	17
入れる, 淹れる, 容れる, 入れる	19	3	16
付く, 点く, 着く, 就く, 即く, 憑く, 附く, つく	21	7	14
なる, 成る, 生る	19	5	14

表1 差分数の上位10語

柏野和佳子・大阿久志緒理(2023)「『分類語彙表』への多義語の意味増補のための『計算機用日本語基本辞書IPAL』との対照」(LRW2023ポスター発表)

# 『IPAL』例文に分類番号を付与する先行研究

- ◆ 『IPAL』の最重要動詞365語、形容詞135語、形容動詞30語の文例全て(最重要動詞2,806例、形容詞類2,319例)を対象に、分類語彙表番号を付与。『分類語彙表』に当該分類がないと判断されれば、該当する分類語彙表番号を付与。反対に、分類語彙表が多義と認める場合に『IPAL』に該当する用例の掲載がなければ、備考を付した。
  - 最重要動詞2,806例には、二者による分類語彙表番号の付与がある。二者間の不一致が935例(33.3%)もあり、判断の難しさがわかる。
  - 「出る」は32区分ある。二者による付与結果のほかに『IPAL』に付与されていた旧版の分類番号を増補版に対応させた番号と、筆者らが付与した番号とを加え、四者間の結果を比較したところ、四者一致0、三者一致7、二者一致18、不一致7、という結果であった。ここからも判断の難しさがわかる。

加藤祥・浅原正幸(2021)「IPAL用言例文への印象評定情報付与と代表義・典型用例の抽出」『計量国語学』vol.33, No.3, pp.178-193.

# 『IPAL』用言例文へ分類番号の付与例「あける」

【参考】『岩波国語辞典 第八版』

あ-ける【明ける】【空ける】【開ける】

㊦【明ける】〔下一自〕

- ①日がのぼって明るくなる。朝になる。▽「明るい」と同語源。
- ②ある期間が過ぎて次の状態となる。「もうじき休暇が—」。特に、年が改まる。「—・—けましておめでとうございます」「—・けて明治十年には」

㊦【明ける・空ける・開ける】〔下一他〕

- ①隔て・仕切り・おおいになっているものを除く。閉じていたものをひらく。[開]締める。「窓を—」「ふたを—」(転じて、物事を始める意にも言う)
- ②そこを占めていたものを無くする。すきまを作る。からにする。⇔ふさぐ。「穴を—」「—・へやをけて貸す」「水を—」(→みず(水)①)
- ㊦ 器物の中のを傾けてほかに移す。「バケツの水を—」「かばんの中身を—」
- ㊦ ひまにする。何もせずにおく。「その日は体をけておいてくれ」
- ㊦ 留守にする。「家を—」▽②はおもに「明」「空」を使う。

見出し語	区分	意味記述	上位語	類義語	反義語	IPAL文例1	IPAL文例2	IPAL慣用
明(あ)ける	001	一定の期間・状態が終わる。	終わる	終わる	暮れる、始まる	夜が 明けた。	奉公人の年季が 明けた。	
空(あ)ける, 明(あ)ける	002	空間・余白もしくは時間の間隔を作る。	離す	置く、作る	塞ぐ、詰める	彼は たんすと壁の間に すきまを 空けた。		
空(あ)ける, 明(あ)ける	003	空間・余白もしくは時間の間隔を作る。	離す	作る	塞ぐ、詰める	マラソン大会の役員は 選手のスタート時間の間隔を 空けた。	もっと 前の人との間隔を 空けなさい。	水を～(=競争相手をひきはなす)。
開(あ)ける	004	空間を作る。		穿つ	塞ぐ	ねずみが 壁に 穴を 開けた。	彼は きりで 板に 穴を 開けた。	帳簿に穴を～。舞台に穴を～。
開(あ)ける	005	閉じていた身体部分を開放した状態にする。		開(ひらく)	閉じる、閉める	金魚は 酸欠で 口を パクパク 開けている。		
開(あ)ける	006	営業を開始する。		始める、開(ひらく)	仕舞う、閉める	彼は 毎日9時には 店を 開ける。	商店街は 店を 夜10時まで 開けている。	ふたを～。芝居を～。
開(あ)ける	007	閉めてあった物を開放する。		開く	閉める	彼は 栓抜きて ビンのふたを 開けた。		
空(あ)ける, 明(あ)ける	008	場所を空にする。		退(の)く	籠る	彼は 出張のため 家を 空けた。		
空(あ)ける, 明(あ)ける	009	(飲む・捨てるなどして)容器に入っている液体を空にする。			満たす	彼は 一気に グラスを 空けた。	彼女は たらいを 空けた。	
空(あ)ける, 明(あ)ける	010	容器に入っている液体を他に移す。	移す		満たす	彼は やかんのお湯を ポットに 空けた。		(※ウイスキーなどアルコール類を1本)～。
空(あ)ける, 明(あ)ける	011	暇を作る。		割く、取る、作り	詰める	彼は 友人と会うため 時間を 2時間 空けた。	彼は スケジュールを 空けて 旅行にでかけた。	体を～。

IPALへ付与された旧番号	新旧対応表から機械的に付与	増補版
2.1600 時間・時刻	2.1600_時間	[SI]2.1635_朝晩 [SI]2.1503_終了・中止・停止 [新]2.1630_年 [新]2.1651_終始 [新]2.5154_天気 明ける[夜が～] 明ける[梅雨が～・忌みが～] 年が明ける 寒が明ける, 忌みが明ける, 梅雨が明ける 梅雨が明ける
(2.1515) (据え・置き・つり・掛けなど)	2.1513_固定・傾き・転倒など	2.1560_接近・接触・隔離 2.1580_増減・補充 あける(空・明)[間を～] あける(空・明)
(2.1515) (据え・置き・つり・掛けなど)	2.1513_固定・傾き・転倒など	2.1560_接近・接触・隔離 2.1580_増減・補充 あける(空・明)[間を～] あける(空・明)
(2.1571) (破壊・切断など)	2.1571_切断, 2.1572_破壊	[慣用]2.1584_限定・優劣 [SI][S2]2.1570_成形・変形 [慣用]2.1931_過不足 穴を開ける 穴を開ける 穴を開ける 穴を開ける
2.1553 開閉	2.1553_開閉・封	2.3393_口・鼻・目の動作 目を明ける
(2.1502) (開始・終了)	2.1502_開始, 2.1503_終了・中止・停止	[SI,S2,慣用]2.1502_開始 幕を開ける
2.1553 開閉	2.1553_開閉・封	2.1553_開閉・封 あける(明・開), かぎを開ける
(2.1530) (出入り)	2.1532_入り・入れ, 2.1531_出・出し, 2.1530_出入り	2.1200_存在 2.3333_住生活 あける(空・明) 家を空ける
(2.3394), (口の動作), (2.125) (保有・除去)	2.3393_口・鼻・目の動作, 2.1251_除去, 2.1240_保存	[S2]2.1200_存在 2.1251_除去 あける(空・明) あける(空・明)
(2.1521) (移動・発着)	2.1521_移動・発着	[慣用]2.1200_存在 2.1251_除去 あける(空・明) あける(空・明)
(2.125) (保有・除去)	2.1251_除去, 2.1240_保存	2.1560_接近・接触・隔離 2.1580_増減・補充 あける(空・明)[間を～] あける(空・明)

見出し語	区分	意味記述	上位語	類義語	反義語	IPAL文例1	IPAL文例2	IPAL慣用
開(あ)ける	005	閉じていた身体部分を開放した状態にする。		開(ひらく)	閉じる、閉める	金魚は酸欠で口をパクパク開けている。		
開(あ)ける	007	閉めてあった物を開放する。		開く	閉める	彼は栓抜きでビンのふたを開けた。		

IPALへ付与された旧番号		新旧対応表から機械的に付与		増補版
2.1553	開閉	2.1553_開閉・封	2.3393_口・鼻・目の動作	目を明ける
2.1553	開閉	2.1553_開閉・封	2.1553_開閉・封	あける(明・開),かぎを開ける



見出し語	区分	意味記述	上位語	類義語	反義語	IPAL文例1	IPAL文例2	IPAL慣用
明(あ)ける	001	一定の期間・状態が終わる。	終わる	終わる	暮れる、始まる	夜が明けた。	奉公人の年季が明けた。	

IPALへ付与された旧番号	新旧対応表から機械的に付与	増補版
2.1600 時間・時刻	2.1600_時間	[SI]2.1635_朝晩 [SI]2.1503_終了・中止・停止 [新]2.1630_年 [新]2.1651_終始 [新]2.5154_天気 明ける [夜が～] 明ける [梅雨が～・忌みが～] 年が明ける 寒が明ける, 忌みが明ける, 梅雨が明ける 梅雨が明ける

# まとめ

## ■『IPAL』の問題

- 『IPAL』の区分が細かい場合、『IPAL』の複数の区分が同じ分類語彙表の番号になる。
- 『IPAL』に不足する意味がある場合、『IPAL』に付与できない分類語彙表の番号が残る。

## ■『分類語彙表』の問題

- 『分類語彙表』に合成語や連語・慣用句で分類されている場合、語として対応を考える必要がある。
- 『分類語彙表』に分類がない場合、適当な分類番号を選択する必要がある。
- 『分類語彙表』に品詞レベルでの分類がない場合、相当する品詞の分類番号を作成する必要がある。

## ■『IPAL』『分類語彙表』いずれか、あるいは両方の問題

- 『IPAL』のI区分に対応する『分類語彙表』の番号が複数ある場合がある。
  - 『IPAL』のI区分が粗い場合がある。
  - 『分類語彙表』の意味分類がいわゆる多義語の区分と異なる場合がある。粗すぎる場合、細かいすぎる場合、何重にも別観点が付与されている場合などがある。

◆ 『IPAL』の区分の見直しや、『分類語彙表』の体系の見直し、語句の増補、修正等が必要である。